

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
岡山科学技術専門学校	昭和62年10月19日	大月 秀之	〒700-0032 岡山県岡山市北区昭和町8番10号 (電話) 086-255-7171																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 岡山科学技術学園	昭和62年10月19日	瀬戸川 正彦	〒700-0032 岡山県岡山市北区昭和町8番10号 (電話) 086-255-7171																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程	建築工学科		平成22年文部科学省 認定	-																						
学科の目的	最新の社会状況に対応した専門知識や技能を修得するため、「学習効果(学科実績)を確実に高める教育」を重視した効果的なカリキュラムにより、社会で有益な専門資格・検定を積極的に取得するとともに、社会に通用する実践力を備え人間性豊かな建築技術者の育成を目指す。																										
認定年月日	平成28年4月1日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2 年	昼間	1,950	990	180	780	0	0																				
単位時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
60人	61	0人	3人	8人	11人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 評定は、S、A、B、C、Dの5段階とし、C以上をもって認定。 評価の方法: 成績は、試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価。																							
長期休み	■学年始: 4月1日～始業日前日 ■夏季: 7月中旬～8月31日 ■冬季: 12月下旬～1月7日 ■学年末: 2月下旬～3月31日		卒業・進級条件	次の条件を満たしていること。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学資負担者面談、関係機関との連携		課外活動	■課外活動の種類 学校行事、ボランティア活動等 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) (株)重藤組、(株)和田組、中央建設(株)、(株)合田工務店、吉元建設(株)、中国建設工業(株)、三宅建設(株)、北浜建設(株)、多度津造船(株) ■就職指導内容 履歴書、送付状、礼状等、文書作成指導 企業研究、面接指導 ■卒業者数 : 25人 ■就職希望者数 : 16人 ■就職者数 : 16人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 64% ■その他 進学者数 : 6人 (令和4年度卒業者に関する 令和5年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級建築士</td> <td>②</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>二級建築施工管理技士</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>積算士補</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 第29回ワンデーエクササイズ 岡山設計クラブ賞 受賞				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	二級建築士	②	-	-	二級建築施工管理技士	③	26人	8人	積算士補	③	23人	13人	福祉住環境コーディネーター	③	6人	5人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
二級建築士	②	-	-																								
二級建築施工管理技士	③	26人	8人																								
積算士補	③	23人	13人																								
福祉住環境コーディネーター	③	6人	5人																								
中途退学の現状	■中途退学者 : 3名 令和4年4月1日時点において、在学者65名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者62名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 学科の更なる魅力づくり。きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者、関係機関との連携。		中退率:	5%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度: 後期授業料3万円～全額を給付(応募資格: 入学時、2年進級時ともに一定の条件を満たす学生) 日本語能力試験合格奨学金: 留学生を対象に、合格レベルによって3万円から10万円を授業料から減額 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.oist.ac.jp/																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
 本学科は、建築関連の業界で活躍できる人材を育成するために、関連企業との連携のもと、下記①～⑥の視点に基づき、業界の技術的動向や人材の育成にかかる情報等の収集や分析に努めるとともに、これらを踏まえた学科教育方針(教育課程や学習内容および育成する学生像等)を策定し、社会に貢献できる実践的技術者の育成を目標に専門教育を推進する。  
 また、教育活動の推進にあたっては、学生による授業評価や管理職による公開授業評価等に加え、関連企業等との協議(教育課程編成委員会等)を通して助言や提言をいただきながら、教育課程に関わる指導内容や指導方法について検証(PDCAサイクル)するとともに、検証結果に基づいて次年度の学科教育方針を策定する。  
 以上が、教育課程の編成に係わる企業等との連携の基本方針である。

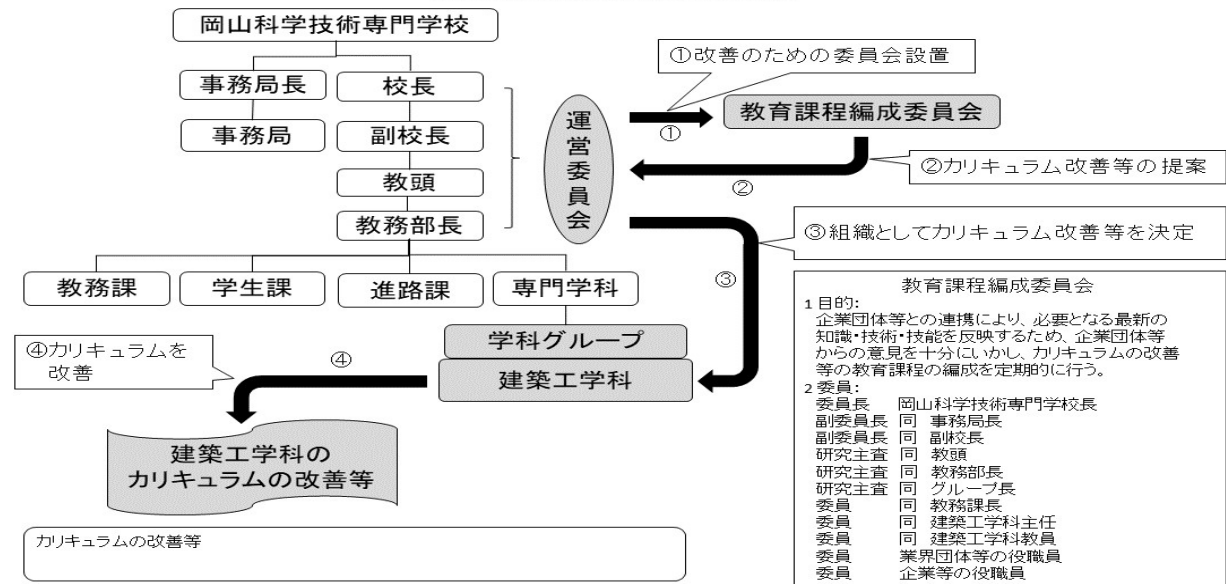
- ① 地域における建築関連の業界の動向について
- ② 建築関連の業界において人材に求められる専門性の動向について
- ③ 求められる実務に関する知識・技術・技能・資格等について
- ④ 建築関連の業界が求める人物像について
- ⑤ 建築関連の業界における人材育成について
- ⑥ 建築設計製図等に関わる指導プログラムについて

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学園組織図の「職業実践専門課程推進委員会」の下部組織として位置づけ、下図に示すように①運営委員会の指示のもと、教育課程編成委員会において企業関係者等から意見を聴取するとともに、現行教育課程の検証を行い、必要に応じて②運営委員会に教育課程の改善等を提案する。③運営委員会において提案が妥当であると決定した後は、④建築工学科の学科教育方針の見直しを行い、座学および実習の指導内容等の改善を図る。なお、年度末の教育課程編成委員会においては改善後の評価等を実施するとともに、翌年度の教育課程の編成にいかす。

教育課程編成委員会の位置付け



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大月 秀之	岡山科学技術専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	
小野 裕明	岡山科学技術専門学校 事務局長	〃	
宮元 秀幸	岡山科学技術専門学校 副校長	〃	
平野 裕久	岡山科学技術専門学校 教頭	〃	
堂本 雅弘	岡山科学技術専門学校 教務部長、グループ長	〃	
小野 英樹	岡山科学技術専門学校 教務課長	〃	
岡部 大吾	岡山科学技術専門学校 建築工学科 主任	〃	
秋山 紘	岡山科学技術専門学校 建築工学科 教員	〃	
大月 始	公益社団法人日本建築家協会中国支部 岡山地域会 副会長	〃	①
和田 一郎	株式会社和田組 代表取締役	〃	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月～7月、2月～3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年7月12日(火) 13:30～15:00

第2回 令和5年3月27日(月) 13:30～15:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記

【提言】

- ① 建築実例を見せながら教えると理解させやすい。
- ② 将来の目標に向かって勉強を継続できるように指導してもらいたい。
- ③ 地元で建築業界を盛り上げる人を育成してもらいたい。
- ④ プレゼンテーション能力の習得が必要だ。

【活用・改善】

- ① 講義内容にもよるが、今後はもっと機会を増やしたい。
- ② 学生のモチベーションを継続できるような教育に努めたい。
- ③ まずは建築への関心が高まるように努めたい。
- ④ 設計課題の中で向上を図りたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、学科教育は学科教育方針に基づき目指す学生像を到達目標に置き教育活動を推進している。中でも、実習指導は実学主義の観点から、高度な技術・技能について指導する必要があり、企業との連携は不可欠である。そこで、企業との連携にあたっては、建築関連の業界において高い技術力を有するとともに、知識・技術・技能について指導力があり、技術者としての態度やマナー等の指導にも十分な理解と協力が得られること等を重視し決定する。

連携に基づく実習は、科目「建築設計製図3」および「卒業制作」の製図実習とし、諸条件を満足する企業を選定するとともに、協定書等を締結しこれに則り実施する。以上が企業等との連携の基本方針である。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

○連携企業の選定と協定: 本学科の教育内容や方針に理解があるとともに、企業の業務内容が科目内容と一致することから、本学科の求める企業として、合同会社風景のある家(主宰 川島 康氏)を選定した。実習内容については、特別講師と学科教員の間で企業の専門的知見を活かした実習計画と評価項目を策定するとともに、双方で職務内容等について確認し協定書を交わした。

○連携企業: 合同会社風景のある家

○科目名: 建築設計製図3(前期)

○連携内容

(1) 期間: 2年生の科目「建築設計製図3」を前期4単位時間(1単位時間45分)

(2) 内容: 継続して指導する担当教員に加え、特別講師は、実習に加わりより専門的な指導および助言にあたる。

(3) 評価: 実習終了時には、特別講師の助言および評価を踏まえ、担当教員が基準に則り5段階で評価する。

○科目名: 卒業制作(後期)

○連携内容

(1) 期間: 2年生の科目「卒業制作」を後期4単位時間(1単位時間45分)

(2) 内容: 学生が計画している建築物に対して、実践経験のある特別講師が実習に加わり指導することで、学生の理解をより深める。

(3) 評価: 実習終了時には、特別講師の評価を踏まえ、担当教員が評価基準に則り5段階で評価する。

科目名	科目概要	連携企業等
建築設計製図3	実際の建築物を前提に与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化等の学習を通して、各種建築の概要と一連の設計工程について学ぶ。	合同会社風景のある家
卒業制作	学生が個々に定めた設計テーマにのっとり、機能図・略設計・本設計と段階ごとに実践的指導を加え、設計を完了するまでの手法を理解させ、もって自信と意欲の向上を図る。	合同会社風景のある家

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員の研修・研究等については、本校教職員研修規程、ならびに下記(1),(2)に示す研修項目に基づき、教職員の経験や能力に応じた研修計画を法人の指示のもと、教務において作成し学科主任ならびに関係教職員に受講させるものとする。受講を命じられた教職員はこれに参加し、専門職として求められる技術力や指導力の向上に努めなければならない。

研修成果は、報告書にまとめるとともに、内容によっては受講者が関係教職員に伝達講習し主旨等の徹底を図る。

また、教職員は、日頃より自己研鑽に励むとともに、指導力の向上に向けた授業研究や研究紀要への投稿等に取り組み、以て本校教育の充実・発展に資するよう努力することを基本方針とする。

(1)建築関連分野における実務に関する研修等

- ① 企業、団体が主催する専門技術研修
- ② 企業から講師を招聘した専門技術研修
- ③ 専門技術・技能の伝達講習
- ④ 教員の技術レベルに応じた専門技術研修

(2) 指導力の修得・向上のための研修等

- ① 専修学校教員 教職課程研修
- ② 企業、団体主催の指導力育成研修
- ③ 外部講師による指導力育成研修
- ④ 職務分掌上の業務に関する指導力育成研修

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

(1) 研修名:講演「地域の力を活かす木造建築とまちづくり」(講師:三井所清典氏/芝浦工業大学名誉教授)

期 間:令和4年5月31日(火)

対 象:建築工学科(岡部大吾、秋山紘)

内 容:三井所氏による木造建築の歴史と大規模木造建築建設の事例紹介。木を利用した地域の活性化と課題等についての講話。

(2) 研修名:講演「からまりしろ、その後」(講師:平田晃久氏/平田晃久建築設計事務所による)

期 間:令和4年9月2日(金)

対 象:建築工学科(秋山紘)

内 容:これからのまちづくりや建築における空間の在り方についての講話。

(3) 研修名:施設見学研修(小橋工務店 新社屋)

期 間:令和5年2月1日(水)

対 象:建築工学科(岡部大吾、秋山紘)

内 容:CLT材を用いた中規模建築(事務所建築)の構造を学ぶ見学。

②指導力の修得・向上のための研修等

(1) 研修:講習「LINE WORKSの利活用について～円滑な情報共有を目指して～」(講師:水谷友奎氏 /ワークスマイルジャパン株式会社)

期 間:令和4年7月8日(金)

対 象:建築工学科(岡部大吾、秋山紘)

内 容:LINE WORKSの用いての情報共有、情報発信の仕方についての講習。

(2) 研修名:講演「発達障害の理解と支援」(講師:磯山友貴氏 /岡山市発達障害者支援センター 主任心理士)

期 間:令和4年9月26日(月)

対 象:建築工学科(岡部大吾、秋山紘)

内 容:①発達障害者がもつ特性を知り対処方法を学ぶ  
②さまざまなケーススタディに基づき、個々の特性に応じた対処方法を知る。

(3) 研修名:講演「学生指導にコーチング・スキルを活かす」(講師:稲垣友仁氏/共創コーチング株式会社 代表取締役, 国際コーチング連盟(ICF)認定プロフェッショナルコーチ)

期 間:令和5年3月7日(火)

対 象:建築工学科(岡部大吾、秋山紘)

内 容:コーチングを学生指導に活用する手法を学ぶ。

(4) 研修名:講習「知的・発達等障害者による学習困難者対応セミナー」(講師:村上理絵/広島大大学院 助教)

期 間:令和5年3月29日(水)

対 象:建築工学科(岡部大吾、秋山紘)

内 容:知的障害・発達障害の定義、ケースごとの対応や支援の仕方についてのセミナー。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

(1) 研修名:建築設計事務所との意見交換会

期 間:令和5年6月24日(土)

対 象:建築工学科(秋山紘)

内 容:建築設計事務所経営者から、建築設計教育に求められる内容について指導を受ける。

②指導力の修得・向上のための研修等

(1) 研修名:「社会人としてのマナー及び文章講座」(連携企業等:岡山科学技術専門学校教務部)

期 間:令和5年8月25日(金)

対 象:建築工学科(岡部大吾、秋山紘)

内 容:①ルールとマナーとエチケット  
就職と直結する専門学校において、社会人になった際、どのような「マナー」「ルール」「エチケット」が必要なのか、あらためて学ぶ。

②分かりやすい文章の書き方

主語と述語、修飾語と被修飾語の適切な関係や、小論文に使える構成などについて事例を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の学校関係者評価は、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について、学校関係者評価委員会において協議し、現状の課題や問題点を洗い出し、改善点等について助言や提言をいただくとともに、運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき具体案を作成する。これを以て次年度の学科教育方針の見直しや学校運営等の改善に取り組むことを基本方針とする。

特に、学科教育については、資格取得や進路状況の他、教育課程編成委員会からいただいた助言や提言に基づく改善点等についても協議し、学科改善の指針とする。

なお、自己点検・自己評価、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく自己評価表、学校関係者評価はホームページ上から公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像 ②学校の特色 ③学校学科の将来構想
(2) 学校運営	①運営方針 ②事業計画 ③意志決定機能 ④人事・給与規程 ⑤情報公開 ⑥業務の効率化
(3) 教育活動	①教育理念に沿った教育課程 ②教育到達レベルや学習時間 ③カリキュラムの体系化 ④授業評価 ⑤成績評価・進級・卒業判定 ⑥資格取得の指導体制 ⑦教員の確保 ⑧教員の資質能力の向上 ⑨教員研修の実施
(4) 学修成果	①就職率 ②資格取得率 ③退学率の低減 ④卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	①進路・就職の支援体制 ②学生相談の体制 ③経済的支援の体制 ④健康管理体制 ⑤課外活動 ⑥学資負担者との連携 ⑦卒業生への支援
(6) 教育環境	①施設・設備の整備 ②学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修の教育体制 ③防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動 ②教育成果の伝達 ③学納金
(8) 財務	①中長期的財務基盤 ②予算・収支計画 ③会計監査 ④財務情報の公開体制
(9) 法令等の遵守	①法令・設置基準等の遵守 ②個人情報の保護 ③自己点検・自己評価の実施 ④自己点検・自己評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設の活用 ②学生のボランティア活動 ③公開講座、教育訓練の受託
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

○学校運営の改善

【質問・提言】

- (1) (企業) 複数の国から留学生が入学しているが、混在することにより問題は発生していないか。
- (2) (同窓会) 昭和町2号館のトイレ改修は進んでいるか。

【回答・改善等】

- (1) (学校) 留学生はネパール、バングラディッシュが多く、ミャンマーがこれから増えていく見込み。特に問題は起きておらず、今後もしっかりと対応していきたい。
- (2) (学校) 2号館に教室のある建築工学科に女子学生が増えたこともあり、女子用の規模を大きくした。1号館も洋式化を進めている。

○学科教育活動の改善

【質問・提言】

在学中に取得する資格について聞きたい。入社後も受験機会をつづけているが、できれば必要資格は資格を取得させておいてほしい。

【回答・改善等】

資格については、二級建築施工管理技士検定の合格率60%を目標に対策授業を行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
栗田 真志	株式会社プローバ 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
小上 敏寿	旭電業株式会社 総務部総務課 係長	〃	〃
山本 泰三	株式会社機能性食品開発研究所 取締役 農水産事業部長	〃	〃
宮西 司郎	協立土建 株式会社 代表取締役	〃	〃
田中 浩二	西尾レントオール株式会社 中国・四国地域管掌 取締役	〃	〃
岸本 晋一	ゼノー工具株式会社 常務取締役	〃	〃
近藤 康史	両備システムズ 営業本部 公共営業統括部 文教ビジネス営業部次長	〃	〃
横田 直樹	株式会社丸文 代表取締役	〃	〃
岡本 径	ネットヨタ岡山株式会社 営業本部 サービス部 副課長	〃	〃

齊藤 雅崇	株式会社ティーエス自動車 玉島事業所 専務取締役	〃	〃
藪田 尊典	岡山科学技術専門学校 同窓会 会長	〃	卒業生
長門 信和	岡山科学技術専門学校 学生支援会 会長	〃	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL <https://www.oist.ac.jp/>

公表時期: 令和5年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等に対して、公教育機関としての透明性の確保と説明責任を果たすため、本校の教育活動および学校運営状況等について、文部科学省の「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、情報を広く公開する。以て、企業等の学校関係者から支持や信頼を得るとともに、適切な情報を提供することにより、高校生等の学校選択の一助となることを基本に、分かり易く見やすい情報発信に努める。

この他、情報提供について他校との差別化を図るため、本校の教育力や教職員の質的レベルの高さを示すものとして教育活動方針ならびに研究紀要を公開し、本校教育の実際の姿を周知する。

以上が、情報提供の基本方針である。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校組織、教育活動方針、沿革、設置学科、学生数
(2) 各学科等の教育	・目指す学科像、育成する学生像、資格取得上の特典等
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・インターンシップ、進路講演会、企業説明会 ・教職員の研修会の参加、研究紀要
(5) 様々な教育活動・教育環境	・広報新聞、技術協議会、展示会、校外研修 ・スポーツクラブ、学生寮の整備
(6) 学生の生活支援	・アルバイトの紹介、教育相談、学生支援会、企業後援会 ・同窓会
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・奨学金制度
(8) 学校の財務	・資金収支計算書 ・貸借対照表
(9) 学校評価	・自己点検・自己評価 ・自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法  
(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL <https://www.oist.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築工学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			公		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		建築環境工学	建築環境の基本的な諸要素の学習を通して、建築物を合理的、科学的に設計する手法について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
2	○		建築設備	集合住宅や事務所ビルの快適な居住環境を創造するための諸設備（空気調和設備、給排水・衛生設備、電気・ガス設備等）について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
3	○		構造力学 1	建築構造物の力学的考察を通して、建築数学、力、モーメント、および反力、応力等について学ぶ。	1通	120		○			○			○	
4	○		建築一般構造	建築物の骨組みや仕上の構成、および木造、鉄筋コンクリート、鉄骨造等について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
5	○		建築材料	主要構造材料である木材、鉄、コンクリートを中心に材料について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
6	○		建築施工	設計内容に基づく建築物を施工するための技術等について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
7	○		建築法規	建築基準法の制度規定と実態規定の単体規定について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
9	○		住居計画 1	ライフスタイル設計、ユニバーサルデザイン等の住空間の構築等について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
10	○		住居計画 2	ハウスメーカーの住宅計画や建築家の住空間などの事例を基に、様々な角度から分析・研究するとともに、住居に求められる要素やデザイン等について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
11	○		建築計画	社会教育施設から医療・福祉施設、商業施設の計画まで、公共の建築物について基本的な考え方や、建築における計画・設計等について学ぶ。	1通	60		○			○			○	
12	○		構法計画	建築の各部分の詳細・収まり（ディテール）の計画・設計・開発等に関わる構法について学ぶ。	2通	60		○			○			○	
13	○		建築史	西洋建築の建築手法と近代建築の歴史、および各時代における日本建築の特徴等について学ぶ。	2通	60		○			○			○	
14	○		建築積算	実際の建築工事の設計図を基に工事費等を予測する積算について学ぶ。	2後	30		○			○			○	
15	○		建築意匠学	建築設計における建築形態論および建築設計方法論の基礎を実例とともに学ぶ。	2通	60		○			○			○	
16	○		建築演習	建築における、計画、法規、構造、施工について、難解な事象を視覚的な資料や映像および実物等を基に学ぶ。	2通	120			○		○			○	○
17	○		二級建築施工対策	建築施工管理技士学科試験合格に向けて問題演習を行う。問題演習を通じて施工管理に必要な知識を学ぶ。	2通	60			○		○			○	
19	○		測量実習	平板、レベル、セオドライト（トランシット）を使った測量方法について実習を通して学ぶ。	1前	30					○	○		○	○
20	○		建築設計製図 1	建築製図の基本的ルールをマスターするとともに、正確で美しくスピーディーに作図する手法について学ぶ。	1通	120					○	○		○	○
21	○		建築設計製図 2	CADによる設計製図を通して、建築図面の作成とCADの基本操作法等について学ぶ。	1通	120					○	○		○	
22	○		建築設計製図 3	実際の建築物を前提に与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化等の学習を通して、各種建築の概要と一連の設計工程について学ぶ。	2前	60					○	○		○	○
23	○		建築設計製図 4	木造専用住宅における居室や鉄筋コンクリート造、および鉄骨造等、各種構造における製図法について学ぶ。	2通	120					○	○		○	○
24	○		卒業制作	建築工学科の集大成として作品製作の取り組みを通して、建築技術者として必要な知識・技術等について学ぶ。	2後	60					○	○		○	○
25	○		建築CG製図	CGによる設計製図を通して、基本的な建築図面について学ぶ。	1通	60					○	○		○	

26	○		建築CAD・CG設計	CAD、CGによる設計製図を通して、実際の建築図面の作成までを課題を通して学ぶ。	2通	120				○	○	○		
27	○		材料実験実習	建築の主材料であるコンクリート、鉄の強度やひずみを測定・実験を通して各材料の特性について学ぶ。	2前	60				○	○			○
28	○		材料実験実習（研修）	試験センターにてコンクリートの破壊試験を行い、その特性について学ぶ。	1後	30				○		○	○	
29	○		ホームルーム	学生、人としての義務や責任、生き方、人間関係作り等について学ぶ。	1通 2通	60	○				○		○	
30	○		ビジネス教養	就職活動への取り組み方、職場でのマナーや態度について学ぶ。	1通	30	○				○		○	○
31	○		一般教養	社会人として知っておくべき、あるいは身につけておくべきマナーや態度、常識について学ぶ。	2通	30	○				○		○	
合計					31科目	1,950単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
○卒業要件：次の条件を満たしていること。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。 ○履修方法：全科目必修。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週